

白馬岳～素晴らしき撤退～

【報告者】Iま

【日時】2016年4月29日～30日

【天候】29日（金）風雪ときどき霧 30日（土）晴れのち風雪

【参加者】I（CL）、S、I

《コースタイム》

29日（金） 榎池高原ゴンドラリフト乗車 10：00－榎池自然園駅降車 10：30－行動開始
11：00－天狗原南下標高 2140m 付近でテント設営 13：30

30日（土） 出発 4：00－乗鞍岳山頂 5：40－白馬大池 5：50－白馬大池山荘 6：00－
標高 2550m 雷鳥坂途中撤退 6：40－乗鞍岳 7：40－テント撤収 8：15－ゴンドラリフト
乗車 10：00－10：30 降車、下山

《 報 告 》

今年のGWに、ピナクルアルパインチームで白馬岳主稜を目指そうと数ヶ月前から、トレーニングや打ち合わせを行ってきました。

ところが、山行日の4日前に、GW前半にヤマテンからの大荒れ情報のお知らせメールが流れました。その情報によりチーム全体への影響も出て、急きょルートの見直し、修正案を何度も繰り返し行われました。その結果、最終案は、稜線歩きとなりました。

低気圧の通過と冬型気圧配置、暴風雪、気温 -10°C 以上、最大風速 20m/s の予報で、リーダーの心労をよそに、安全だといえる根拠はどこにあるのか！？と自問自答していました。そんなこんなで天候不安定でコンディションも整わない状況の中、体感温度について学ぼうと意を決し、参加をしました。

<1日目> 夜間交代で片道 1000km 超の運転をし、安曇野 IC で当会の鹿島槍チームと合流をし、両チームで朝食を済ませました。これが最後の食事にならないようリーダーは下山時以外にもお互い連絡を取りあうことの約束を告げられました。

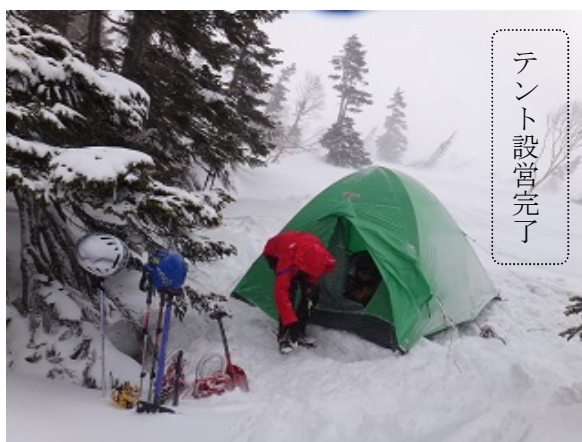
榎池高原駅乗り場では、過去の雪崩発生区域の立入禁止ルートのプリントが配られていました。私の警戒心はますます閾値を超えそうになりました。しかし、高度 1000m を稼いでくれるゴンドラリフトで気を紛らわせました。

自然駅に到着し、警備隊員からの話によると、今朝からおおよそ 20 名くらいは白馬大池山荘（閉鎖中）付近を目指しているとの口コミ情報も頂きました。

九州から遥々訪れた我々のチームが、行動開始時間が出遅れることは確実ですが、到着した現場では、晴れ間もあり弱風でしたので、とりあえず初日は白馬大池テン場付近まで、目指すことにしました。

かすかなトレースもあり、天狗原まで徐々に高度を上げて進んでいくと、先発パーティーが下りて来て、風が強く引き返してきたことを教えてもらいました。すると案の定、次第に視界が遮られ、風も強く吹雪いてきました。

Iリーダーは突如、何やら感覚的に察知され、ビバーク地を探し始めました。天狗原より南下の標高 2140m付近で、風を遮られる樹木に覆われた場所で、私たちはショベルを持ち、急きょ掘り固めました。移り変わる天候の速さに危機を感じながら、テントを設営し、土嚢に雪を入れ、テントに潜り込む動作はとても機敏だったように思います。数十分が経過すると、後方を歩いていた名古屋チームも私たちの近くに、テントを設営していることに気がきました。



テント設営完了

迅速な対応のおかげで、気分も落ち着きを取り戻し、昨夜からの長時間運転の疲労も含めて、夕方から早めに就寝をし、睡眠時間をしっかり確保しました。

<2日目>翌朝 2時半に起床をし、4時に出発をしました。数日前の天気予報と変動はなく、晴れ、気温は-10℃、午後からの最大風速は 20m/s でした。

昨夜からの降雪でトレースはなく、焦らずゆっくり乗鞍岳を目指しました。天狗原を過ぎ、急斜面となる付近で、雷鳥と初めて対面することが出来ました。最初はハイマツの樹林と同様で判別がしにくかったのですが、寒い環境の中、つがいでペタペタと歩く姿は微笑ましく感じました。知らず知らずに歩いていると踏みつけそうになるので注意をしないとイケません。



乗鞍岳頂上にて

乗鞍岳のケルンも見つけ、大池山荘で小休止をしました。天候の変動に注意しながら、稜線に取り付くまでの歩みを慎重に行いました。一步一步を進んでいると、昨日と違い、さらに強い風を感じました。バラクラバやサングラスで顔面を防いでいても、わずかな肌の隙間から、チクチクと氷粒が刺さってきました。二、三步進んでは、体ごと飛ばされ、転倒しそうになり、耐

風姿勢をとり、身体を確保しました。これを黙々と繰り返し進んでいると、またもや

突如リーダーから引き返そうと指示がありました。私の肩の力は一気に抜け、緊張の糸が切れました。勇気ある素晴らしい決断力でありましたし、大変有難く感謝いたしました。

足早に下山し、帰りの乗鞍岳からは後立山の稜線を眺め、白馬岳付近では雪煙や雪のハリケーンも見られました。ようやく自分の気持ちに余裕が持てました。



乗鞍岳から後立山の山々

天候が大きく左右する冬季のアルパインについて、チーム内で数ヶ月以上前から議論が行われ、代替案も検討してきました。しかしGW前半は予想外の荒天となり、最終案も稜線歩きの計画となりました。アルパインの考え方は様々であり、実際は稜線までも到達出来ませんでした。しかし、チーフリーダーの然るべき判断は、私は非常に良かったなあと思いました。

また、今回は熊本地震発生から半月以上の経過で、今後も継続した支援はまだ必要です。九州の山の仲間と生きて帰って故郷を守っていく大切さが今回の山行に繋がったのではないかと考察しています。Iさん、Sさんはじめ、鹿島槍チームの皆さん、事前に念入りに情報の共有や提供をして、無事に帰福が出来たことに、とても感謝いたします。どうもありがとうございました。

(感想：I)

素晴らしき撤退・・・ うーん、自分としては天気読みの失敗であったと認識している。お昼過ぎまで高気圧の張り出しで晴れの予報、ヤマテン予報では風は20mの予報であったが、高気圧の影響で多少風はゆるむかもと淡い期待で登ってみたが、稜線の下でも予報通りの強風、瞬間的に体感で25~30m/秒の暴風が吹く。思わず耐風姿勢になるほど。この状態で6時間弱の稜線歩きは不可能と判断し撤退の判断を下した。

立山連峰、後立山連峰は北アルプスの中でも特に風が強いと認識している。積雪期・残雪期の縦走は天候・風の条件が整わないとかなり難しいと感じた。天気自体はピーカンとも言える好条件であったが、風に負けての撤退となった。やはりGWの天気読みは難しいと感じた山行であった。(勝手に淡い期待をしていただけたとも言える)

《概念図あるいはルート図》

